

6 公民館のまつり

1 本館まつり

公民館利用サークル同士の発表と交流が目的である「まつり」は、昭和54(1979)年6月に「第1回公民館利用者大会」が行われたが、第2回目の実施には至らなかった。

その後、昭和57(1982)年7月から毎年本館で開催されている「公民館のつどい」では、講演会・演示・展示などが盛り込まれ、学習・発表と交流の要素があったが、しだいに学習色が濃くなっていく。

そのような中、平成9(1997)年7月に、第16回公民館のつどいと同日開催された「公民館開館20周年記念事業」では、屋外交流会として演示・展示・模擬店が特設の野外ステージで行われた。

この屋外交流会に多くの本館サークルが関わったのを契機に、本館の発表と交流会をどうしていくかが課題となり、平成11(1999)年6月の本館利用者連絡会において、本館を利用しているサークルやメンバーがお互いのつながりをより緊密にし、問題解決や公民館をより使い良くするための手立ての一つとして、「本館まつり」の開催が決まり、実行委員が選出され、9月に第1回本館まつりが実施

された。

すでに単独の発表の場があった松林・白梅分館とは異なる状況ではあったが、「公民館のつどい」が毎回、本館を会場に行われていたため、「公民館のつどい」イコール「本館のつどい」というイメージがあった。

公民館のつどいに発表の要素が薄れていく中で、つどいとは趣旨を明確に区別して「本館まつり」が生み出されていった。

「市民音楽祭」、「市民文化祭」、「人生うたい語りのつどい」など本館ではさまざまな学習の発表と交流の場が開催されていたが、最後に本館独自の「まつり」が登場したこととなる。

こうして紆余曲折しながら実施された本館まつりは、現在も実行委員会が毎回組織され、その設置根拠は「本館利用者連絡会会則」第10条(実行委員会)により、「利連が決定した活動毎にその活動を担当する実行委員会を設置する」にあり、参加希望サークルのメンバーが集まり実行委員会を運営する。

まつりの全体的な内容については全てこの実行委員会で協議し決定しているが、具体的な実施内容については、演示・展示・模擬店・子ども遊びの各部門に分かれ、それぞれ部門長を立て、担当職員も配置して実行委員会とは別に部門会を組織して協議している。

平成21(2009)年の第11回目からは、市民会館の運営が指定管理者となったことに伴い、公民館の事務所機能が隣接するさくら会館へ移転し、公民館職員は本館を離れて準備等に当たっている。これにより、職員とサークルとの物理的な距離が遠くなり、サークル



第12回本館まつり エンディング 平成22年6月27日

に対する本館まつり参加への声かけやPRに少なからず影響しており、加えて、サークルの高齢化や不参加サークルの増加などにより、実行委員会や各部門会への出席や担い手が減少傾向にある。

一方、さくら会館に公民館の事務所機能が移転したことに伴い、併設されている「学童さくらクラブ」との関係が深まり、平成22(2010)年度の第12回から演示部門や子ども遊び部門にさくらクラブが参加するようになる。ダンス等での、子どもたちの元気いっばいの姿に、保護者など新たな来場者が多く訪れ会場を賑わせている。学童クラブとの連携が新たな展開を生んでいくことを期待したい。

本館まつりの主役はあくまでも、サークルや利用者自身であり、実行委員会や部門会での意思を尊重し、それを支援するのが公民館職員の役割である。

本館まつりでの発表と交流は、サークル自身の成長のみならず、地域や市全体の文化を高め、日頃、公民館を利用していない市民にも開かれ、成果を還元する場でもある。公民

館のまつりは教育機関で行われる学習発表会であることも意識しながら取り組まなければならない時期に来ている。



第13回本館まつり 模擬店部門 平成23年7月9日



2 だれでもなんでも展

昭和 55 (1980) 年の利用者交流会で地域のミニ文化祭実施に向けて、職員側から次の点が提案された。

- 1 地域の手作りの文化を育てるため
- 2 サークルやグループの活動の発表の場として
- 3 出会いふれあいの場をめざして
- 4 公民館の活動をできるだけ地域の人々に知っていただくため

そして、何よりも皆で一つのものを作り出す経験を共有しながら、地域に働きかけていく力を利用者が持つ。

名称については、松林分館利用サークルや一般のグループで活動している人が地域でこつこつ作ってきたものや、普段発表の機会がない方など、誰もが気軽に参加できるよう「だれでもなんでも展」と名付けられた。

だれでもなんでも展の特徴は、以下のとおりである。

- 1 手作り、下駄履きで参加できること
(気軽に参加できること)
- 2 温かさがあること
- 3 お師匠さんの発表会にならず、『個人』で参加ができること

4 日常の活動が見られると同時に、松林分館の活動がわかること

毎年、6月から毎月1回の実行委員会を行い、10月中旬の土曜日、日曜日に開催する。松林分館のだれでもなんでも展は“まつり”ではなく“ミニ文化祭”という形で行われている。「だれでもなんでも展」が大テーマであり、サブテーマは、毎年、皆で意見を出し合い、実行委員会で決定されている。毎年、温かみのあるメッセージが込められ、利用者の松林分館への熱い思いを感じることができる。

平成 29 (2017) 年度で第 38 回目を迎え、来館者は 1,500 人を越える盛況さである。しかし、利用者の高齢化に伴い模擬店の担い手が年々減少しているため、ボランティアをどのように集めるかが課題となっている。加えて、テント、机、イスの設置等会場の設営に必要な人手も減少しているため、会場の設営に関しては次年度より業者委託を予定し、利用者の負担を軽減することとした。

時代の変化と共に参加者層も変化していくが、初心を忘れず、地域の架け橋となるよう、利用者と共にだれでもなんでも展を作り上げていきたい。

年 度	回	サブテーマ (キャッチコピー)
平成 19 年度	第 28 回	見て 知ってさあ行こう！みんな一緒に松林へ
平成 20 年度	第 29 回	行ってみようよ 松林へ！きっと何かが変わるから
平成 21 年度	第 30 回	笑顔が作る「楽しい人の和」松林なんでも展
平成 22 年度	第 31 回	見て・きいて笑顔をかさねて
平成 23 年度	第 32 回	松林で地域の絆を深めよう
平成 24 年度	第 33 回	地域をつなぐ虹の架け橋 だれでもなんでも展
平成 25 年度	第 34 回	地域の絆で笑顔がいっぱい
平成 26 年度	第 35 回	集って楽しい松林まつり
平成 27 年度	第 36 回	手をつなごうみんなで作るなんでも展
平成 28 年度	第 37 回	宝箱あけてびっくり地域のちから

3 白梅まつり

(1) 白梅まつりの経緯

公民館白梅分館が開館してから約1年後の白梅利用者交流会において「白梅分館で活動している人が発表できる場を設けたらどうか」という発言が契機となり、11回の実行委員会等の会合を経て、昭和57(1982)年5月に「白梅会館利用者発表会」(現：白梅まつり)が開催された。

発表会の当時の主旨は、「①日頃のサークル活動の成果の発表の機会とする ②個々のサークルが同一目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会とする ③利用者発表会の準備から当日までの過程を通して、人と人との出会いを広げる ④熊川地域の市民の生活・文化創造の“ひろば”になっていくようにする」であった。現在の白梅まつりも実行委員会方式で毎年実施しており、企画や運営をはじめ、展示や演示などを発表するサークルのみならず、受付や駐車場整理などの裏方を含めて全てのサークルが役割を担うことになっており、発足当時の発表会の主旨は現在も脈々と受け継がれている。特に和室でのお茶席体験や屋外でのみんなで歌声コーナー、裏庭での子どものひろばなどは、地域との交流・親睦を図るふれあいの場となっている。

(2) 最近の白梅まつりの動向

平成23(2011)年度は、東日本大震災の直後のため、まつりを自粛するムードもある中、「とどけ被災地に、白梅の心」と題し、この年は名称を「白梅利用者発表会」と変更し開催にこぎつけた。「私たちは心を一つにして被災された皆さんを応援しています」というメッセージを送り、被災地支援のために義援金

を募り、被災地で活動された方による「震災と私達の暮らし～被災地から学ぶ住民のつながり」報告会も実施した。

翌年以降も復興支援の義援金を募り、平成24(2012)年度には「防災のひろば」を実施し、平成25(2013)年度からは「復興支援(福島県) 飯館村物産販売」の模擬店ブースを設け支援し続けている。

また、同じ白梅会館を利用している学童たんぼぼクラブと連携して平成25(2013)年度からは児童によるけん玉パフォーマンスを披露し、大きな集客につながっている。普段はあまり公民館を利用していない学童のご家族の方々にも白梅分館でのサークル活動等をPRできる絶好の機会を創出している。

平成28(2016)年度からは白梅会館前庭(屋外ひろば)のテント等を設営する経費が市費(公費)により予算計上された。白梅分館利用者や実行委員の高齢化に伴い、長年の懸案であったテント設営や机椅子の準備・撤去といった重労働を担う人材不足の事態が解消され、屋外会場の設営が業者委託となった。

新たなサークル活動等の担い手の確保や若い世代がもっと活躍してほしいという課題が議論される中、この年の第36回白梅まつりより「実行委員会の模擬店」が屋外ひろばに出店するようになり、実行委員同士が協力し合い、いなりずしや手作りこんにゃく料理などを提供し、白梅まつりの賑わいを創出した。これらの取り組みを次世代につないでいこうとする機運も高まりつつある。



第36回（平成29年6月10日）白梅まつり開会式



第36回（平成29年6月11日）白梅まつり閉会式

平成19(2007)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第9回本館まつり 「お祭り広場が楽しい！ みんなでいこう！本館 まつり」	7月7日	演示部門：公民館30周年スライドショー、マジック、コーラス、郷土芸能、児童合唱、日本舞踊、ウクレレ 展示部門：パッチワーク、イラストマップ、フラワーバスケット、書道、絵手紙、絵手紙体験、環境学習 模擬店部門：焼きそば、肉まん、すいとん、マドレーヌ、フランクフルト、ホットコーヒー 子ども遊び部門：セーフティキッズ	1,100
	7月8日	演示部門：草笛、コーラス、社交フラダンス、フラダンス、コーラス、股旅舞踊、ジャズダンス、カラオケ 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門：セーフティキッズ、リトミック体験	
第28回だれでもなんでも展 「見て知ってさあ行こう みんな一緒に松林へ」	10月20日	展示：絵画、陶芸、写真、七宝焼、水彩画ほか 演示：映画、マジックほか 模擬店：フランクフルト、ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯 喫茶コーナー：コーヒー、紅茶、マドレーヌ、ぜんざい	486
	10月21日	展示(内容は前日と同じ) 演示：映画、マジック、大正琴、新舞踊、剣詩舞、コーラスほか 体験コーナー：絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店：ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯、クッキー 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第26回白梅まつり 「老いも若きも白梅まつり」	6月9日	展示のひろば：生け花、陶芸、子ども創作絵画、書道、パッチワーク、俳句、絵手紙・トールペイントなど各サークル作品展示 屋外：福祉ボランティア活動展、盆栽展示質問コーナー、手づくり工作遊びコーナー、ホットケーキ作りコーナー 模擬店・バザー お茶席	1,104
	6月10日	展示のひろば 屋外 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう：簡単な手づくり工作で遊ぼう、お囃子を楽しもう、年代を越えてゲートボールを楽しもう 演示のひろば：人形劇、オカリナ、お囃子、コーラス、日本舞踊、太極拳、朗読などの演奏や演舞	

平成20(2008)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第10回本館まつり 「手をつなごう みんな のまつり 地域の輪」	7月5日	演示部門：マジック、股旅舞踊、民謡、草笛、コーラス、カラオケ・新舞踊、ウクレレ、日本舞踊、児童合唱 展示部門：フラワーバスケット、フラワーバスケット体験、書道、絵手紙、絵手紙体験、環境学習、エッセイ、瓢箪展示、古典文学 模擬店部門：焼きそば、肉まん、すいとん、マドレーヌ、フランクフルト、白玉ぜんざい、ホットコーヒー、ポップコーン、かきあげそば、麦茶 子ども遊び部門：草笛、ベーゴマ、割り箸鉄砲、お手玉、竹馬	950
	7月6日	演示部門：草笛、マジック、リコーダー、三味線、郷土芸能、フラダンス、吹奏楽、コーラス、演劇、カラオケ、ウクレレ、股旅舞踊 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門(内容は前日と同じ)	
第29回だれでもなんでも展 「行ってみよう松林へ！ きっと何かが変わるから」	10月18日	展示：水彩画、陶芸、ステンドグラス、押絵、金属工作、竹細工、書道、生け花、造花、平和パネル展ほか 演示：歌、ウクレレ演奏、マジック、本の読み聞かせ、バルーンアート 模擬店：フランクフルト、ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯 喫茶コーナー：コーヒー、紅茶、マドレーヌ、ぜんざい	825
	10月19日	展示(内容は前日と同じ) 演示：平和なとき(紙芝居など)、大正琴演奏、ウクレレ演奏、コーラス、マジック、童謡合唱ほか 体験コーナー：絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店：ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯、クッキー 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	

事業名	実施期間	内容	人数
第27回白梅まつり 「出会いふれあい白梅で」	5月31日	展示のひろば:生け花、陶芸、子ども創作絵画、書道、パッチワーク、俳句、絵手紙、トールペイント、熊川分水写真展など各サークル作品展示 屋外:盆栽展示質問コーナー、手づくり工作遊びコーナー、ホットケーキ作りコーナー 模擬店・バザー 楽しい子どもひろば:簡単な手づくり工作、楽しいくじ引きコーナー お茶席	1,269
	6月1日	展示のひろば 屋外 模擬店・バザー 楽しい子どもひろば 展示のひろば:大正琴、お囃子、民謡、朗読劇、日本舞踊、コーラス、オカリナ、太極拳などの演奏や演舞	

平成21(2009)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第11回本館まつり 「つなぐ手の 先に広がる まつりの輪」	7月4日	演示部門:草笛、三味線、エアロビクス、マジック、ウクレレ、コーラス、ダンス、舞踊、児童合唱、太極拳 展示部門:書道、絵手紙、絵手紙体験、環境学習、エッセイ、瓢箪展示、ペン習字、デジタル画像 模擬店部門:焼きそば、マドレーヌ、フランクフルト、天ぷらそば、おしるこ、ホットコーヒー、パパラワンカイナ 子ども遊び部門:セーフティキッズ、縁日、フォルクローレ・ケーナ演奏	2,264
	7月5日	演示部門:草笛、フラダンス、踊り、リコーダー、ウクレレ、郷土芸能、吹奏楽、カラオケ・新舞踊、股旅舞踊、演劇 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門(内容は前日と同じ)	
第30回だれでもなんでも展 「笑顔が作る「楽しい人の和」松林なんでも展」	10月17日	展示:水彩画、陶芸、ステンドグラス、押絵、金属工作、竹細工、書道、生け花、造花、平和パネル展ほか 演示:DVD上映、ウクレレ演奏、マジック、オカリナ演奏ほか 体験コーナー:ビーズ、アイロンビーズ、松林ウォッチング09 模擬店:フランクフルト、ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯 喫茶コーナー:コーヒー、紅茶、マドレーヌ、ぜんざい	933
	10月18日	展示(内容は前日と同じ) 演示:コーラス、歌、平和なとき、大正琴演奏、ウクレレ、マジック、剣詩舞、童謡合唱 体験コーナー:絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店:フランクフルト、ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯、クッキー 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第28回白梅まつり 「笑顔あふれる白梅まつり」	5月30日	展示のひろば:生け花、陶芸、子ども創作絵画、書道、パッチワーク、俳句、絵手紙、トールペイント、熊川分水写真展など各サークルの作品展示 屋外:陶芸体験コーナー、手づくり工作遊びコーナー、ホットケーキ作りコーナー 模擬店 楽しい子どもひろば:簡単な手作り工作、楽しいくじ引きコーナー お茶席 展示のひろば:人形劇の上演	1,193
	5月31日	展示のひろば 屋外 模擬店 楽しい子どもひろば 展示のひろば:大正琴、お囃子、民謡、朗読劇、日本舞踊、コーラス、オカリナ、太極拳などの演奏や演舞	

平成22(2010)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第12回本館まつり 「ひろげよう 福が生まれる 市民の輪」	6月26日	演示部門: 舞踊、コーラス、ウクレレ、日本舞踊、草笛、ラテンダンス、マジック、ダンス 展示部門: 書道、絵手紙、絵手紙体験、環境学習、ひょうたん展示、ペン習字、アマチュア無線 模擬店部門: 焼きそば、マドレーヌ、フランクフルト、天ぷらそば、みそ田楽、あんみつ、ガーリックポテト、かき氷、コーヒー(冷・温)、ポップコーン 子ども遊び部門: 草笛教室、ロープワーク、セーフティキッズ、むかし遊び&ペーパークラフト	1,848
	6月27日	演示部門: 太鼓、マジック、草笛、リコーダー、踊り、フラダンス、吹奏楽、ウクレレ、股旅舞踊、カラオケ、演劇、コーラス、郷土芸能 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門: 草笛教室、セーフティキッズ、むかし遊び&ペーパークラフト	
第31回だれでもなんでも展 「見て・きいて笑顔をかさねて」	10月16日	展示: 木工作品、絵画、陶芸、手芸、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、折紙ほか 演示: 映画、マジックほか 体験コーナー: 松林ウォッチング10 模擬店: フランクフルト、ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯 喫茶コーナー: コーヒー、紅茶、マドレーヌ、ぜんざい	1,038
	10月17日	展示(内容は前日と同じ) 演示: 映画、大正琴、剣詩舞、コーラス、マジック、童謡合唱、平和なとき(紙芝居、絵本の朗読)ほか 体験コーナー: 絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店: ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯、クッキー 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第29回白梅まつり 「白梅は、笑顔の集まる交差点」	5月29日	展示のひろば: 生け花、陶芸、子ども創作、絵画、書道、パッチワーク、俳句、絵手紙、トールペイント、熊川分水写真展、第二小学校内草花写真展など各サークルの作品展示 屋外: 陶芸体験コーナー 模擬店 楽しい子どもひろば: 簡単な手づくり工作、ホットケーキ作り、楽しいくじ引きコーナーなど	1,179
	5月30日	展示のひろば: 陶芸体験コーナー 模擬店 楽しい子どもひろば 演示のひろば: 大正琴、お囃子、民謡、朗読劇、日本舞踊、コーラス、オカリナ、太極拳、謡曲などの演奏や演舞	

平成23(2011)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第13回本館まつり 「とどけよう みんなの思いを」	7月9日	演示部門: 朗読、ハーモニカ、ダンス、コーラス、ウクレレ、日本舞踊、児童合唱、演劇、ラテン音楽・ラテンダンス 展示部門: 書道、絵手紙、絵手紙体験、環境学習、ひょうたん展示 模擬店部門: 焼きそば、マドレーヌ、フランクフルト、天ぷらそば、カレーライス、あんみつ、スピン、コーヒー(冷・温)、駄菓子 子ども遊び部門: 草笛教室、セーフティ教室、昔遊び、クラフト	3,242
	7月10日	演示部門: フラダンス、手遊び、ラテン音楽・ラテンダンス、リコーダー吹奏楽、草笛、郷土芸能、マジック、ウクレレ、股旅舞踊、カラオケ、演芸、ジャズ演奏 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門(内容は前日と同じ)	

事業名	実施期間	内容	人数
第32回だれでもなんでも展 「松林で地域の絆を深めよう」	10月15日	展示:水彩画、陶芸、ステンドグラス、押絵、竹細工、生け花、造花、ビーズ、篆刻、平和パネル展示、書道、絵手紙、壁面飾りほか 演示:、大正琴、剣詩舞、コーラス、オカリナほか 体験コーナー:バルーンアート 模擬店:フランクフルト、ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯 喫茶コーナー:コーヒー、紅茶、マドレーヌ、ぜんざい	768
	10月16日	展示(内容は前日と同じ) 演示:ウクレレ、童謡合唱、マジック、平和なとき(紙芝居)ほか 体験コーナー:絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店:ポップコーン、焼きそば、かけそば、豚汁、お団子、赤飯、クッキー 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第30回白梅利用者発表会 「とどけ被災地に、白梅の心」	5月28日	展示のひろば:陶芸、子ども創作・絵画、書道、パッチワーク、編み物・手芸、俳句、絵手紙、写真、熊川分水研究、デジタル機器の活用法などの作品展示や紹介 模擬店・屋外:模擬店、陶器・盆栽などの展示 子どものひろば 手づくり工作、ホットケーキ作り、楽しいくじ引きコーナーなど 健康コーナー お茶席	949
	5月29日	展示のひろば 模擬店・屋外 子どものひろば 演示のひろば:お囃子、民謡、朗読、コーラス、オカリナ、太極拳、謡曲などの発表	

平成24(2012)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第14回本館まつり 「手をつなごう 笑顔ひろがる 本館まつり」	7月7日	演示部門:ダンス、ハーモニカ、草笛、大正琴、コーラス、ウクレレ、演芸、日本舞踊、マジック、朗読 展示部門:書道、絵手紙、絵手紙体験、環境学習、ひょうたん展示 模擬店部門:焼きそば、マドレーヌ、ホットドッグ(本館ドッグ)、天ぷらそば、カレーライス、草だんご、コーヒー(冷・温) 子ども遊び部門:むかし遊び、クラフト	2,327
	7月8日	演示部門:ジャズ演奏、ラテン音楽・ラテンダンス、マジック、リコーダー、ハンドベル、フラダンス、吹奏楽、郷土芸能、コーラス、ウクレレ、カラオケ、股旅舞踊 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門:草笛体験、セーフティキッズ、むかし遊び、クラフト	
第33回だれでもなんでも展 「地域をつなぐ虹の架け橋 だれでもなんでも展」	10月20日	展示:ステンドグラス、陶芸、水彩画、竹細工、写真、生け花、押し花、絵手紙、書、ドールハウス、きもの、ビーズ作品、篆刻、盆栽、手芸、ウェルカムフラワーほか 演示:ハーモニカ、マジック、インドネシア舞踊、ウクレレ、バルーンアート 体験コーナー:からくり絵作り、くうきでっぽう作り 模擬店:焼きそば、綿アメ、ポップコーン、五目寿司、赤飯、かけそば、フランクフルト 喫茶コーナー:コーヒー、紅茶、マドレーヌ、ぜんざい	1,229
	10月21日	展示(内容は前日と同じ) 演示:平和なとき、ギター、オカリナ、ひょっとこ踊り、歌、大正琴、コーラス、日舞(子ども)、剣詩舞、童謡 体験コーナー:絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店:焼きそば、綿アメ、ポップコーン、五目寿司、赤飯、かけそば、クッキーほか 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第31回白梅まつり 「笑顔でつどい 白梅まつり」	5月26日	展示のひろば:陶芸、子ども創作・絵画、書道、パッチワーク、編み物・手芸、俳句、絵手紙、写真、熊川分水研究、デジタル機器の活用法などの作品展示や紹介 模擬店・屋外:模擬店、陶器・盆栽などの展示、絵手紙体験コーナー、みんなで歌声コーナー 子どものひろば 手づくり工作、ホットケーキ作り、輪投げ、楽しいくじ引きコーナーなど 健康コーナー お茶席 防災コーナー:被災者支援活動を通して防災を考える	1,473
	5月27日	展示のひろば 屋外・模擬店 子どものひろば 演示のひろば:お囃子、民謡、社交ダンス・フラダンス・タヒチアンダンス、朗読、コーラス、オカリナ、大正琴、太極拳、謡曲、新舞踊などの発表	

平成25(2013)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第15回本館まつり 「まつりだ！まつりだ！ 本館まつり」	7月20日	演示部門：ダンス、ハーモニカ、大正琴、コーラス、フラダンス、お囃子、ウクレレ、マジック、朗読、社交ダンス、沖縄太鼓 展示部門：書道、絵手紙、絵手紙体験、ひょうたん展示、環境学習、国体展示 模擬店部門：焼きそば、マドレーヌ、パイナップルケーキ、ホットドッグ(本館ドッグ)、天ぷらそば、カレーライス、草だんご、コーヒー 子ども遊び部門：クラフト&輪投げ、段ボール迷路	2,230
	7月21日	演示部門：ジャズ演奏、股旅舞踊、リコーダー、ラテン音楽・ダンス、フラダンス、吹奏楽、郷土芸能、ウクレレ、草笛、コーラス、カラオケ、演芸 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門：草笛教室、セーフティ教室、段ボール迷路	
第34回だれでもなんでも展 「地域の絆で笑顔が いっぱい」	10月19日	展示：水彩画、鉛筆画、陶芸、写真、押絵、手作り雑貨、編み物、押し花、パッチワーク、ポタニカルアート、ドールハウス、竹細工、切り絵、刺繍、ビーズ、盆栽、篆刻、俳句、飛び出すカード、絵手紙、書、四小ふっさっ子の広場の児童作品、夏休み子ども教室消しゴムはんこ作品 演示：インドネシア舞踊、ハーモニカ、ウクレレ、バルーンアート、童謡、腹話術(講座参加者)、新舞踊、平和なとき(絵本の読み聞かせ、歌) 体験コーナー：句会、知恵の輪作り、かわいいクリスマスツリー作り 模擬店：ポップコーン、焼きそば、かけそば、五目ずし、赤飯、フランクフルト 喫茶コーナー：コーヒー、紅茶、マドレーヌ、お汁粉	1,001
	10月20日	展示(内容は前日と同じ) 演示：ギター、マジック、オカリナ、手話ダンス、大正琴、コーラス、ひょっとこ踊り、日本舞踊、剣詩舞 体験コーナー：絵手紙 保健センターによる健康相談 模擬店：ポップコーン、焼きそば、かけそば、五目ずし、赤飯、クッキー 手づくり小物 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第32回白梅まつり 「笑顔いっぱい 白梅まつり」	5月25日	展示のひろば：陶芸、子ども創作・絵画、書道、パッチワーク、編み物・手芸、俳句、絵手紙、写真、熊川分水研究などの作品展示や紹介 屋外：模擬店、陶器・盆栽などの展示、絵手紙体験コーナー、復興支援(福島県飯館村の物産販売) 子どものひろば 手づくり工作、ホットケーキ作り、輪投げ、楽しいくじ引きコーナーなど 健康コーナー みんなで歌声コーナー お茶席	1,391
	5月26日	展示のひろば 屋外・模擬店 子どものひろば 学童たんぽぽクラブけん玉パフォーマンス 演示のひろば：お囃子(はやし)、民謡、社交ダンス・フラダンス・タヒチアンダンス、朗読、コーラス、オカリナ、大正琴、太極拳、謡曲、新舞踊などの発表	

平成26(2014)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第16回本館まつり 「楽しいよ みんなで行こう 本館まつり」	7月12日	演示部門：ダンス、フラダンス、大正琴、コーラス、ウクレレ、草笛、マジック、社交ダンス 展示部門：書道、絵手紙、絵手紙体験、ひょうたん展示、環境学習、おりがみ 模擬店部門：焼きそば、パイナップルケーキ、ホットドッグ(本館ドッグ)、天ぷらそば、カレーライス、草だんご、鶏のさっぱり煮(ゆで卵付)、コーヒー(冷・温) 子ども遊び部門：草笛教室、段ボール迷路、射的、輪投げほか、三国志対戦カードゲーム体験会	2,553
	7月13日	演示部門：マンドリン、ハーモニカ、リコーダー、社交ダンス、朗読、吹奏楽、郷土芸能、股旅舞踊、コーラス、演芸 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門：セーフティキッズ、かき氷、段ボール迷路、射的、輪投げほか	

事業名	実施期間	内容	人数
第35回だれでもなんでも展	10月25日	展示:一閑張り、篆刻、生け花、水彩画、油絵、陶芸、写真、押絵、編み物、手作り雑貨、押し花、ドールハウス、切り絵、ビーズ、盆栽、俳句、飛び出すカード、絵手紙、書、帆掛け舟、夏休み子ども教室参加者作品 演示:英語の歌、オカリナ、手話ダンス、ウクレレ、しの笛、マジック、腹話術、剣詩舞、新舞踊、童謡 体験コーナー:野草のアレンジメント 模擬店:焼きそば、かけそば、五目ずし、赤飯、ポップコーン、フランクフルト 喫茶コーナー:コーヒー、紅茶、パイナップルケーキ、白玉ぜんざい	1,282
「集って楽しい松林まつり」	10月26日	展示(内容は前日と同じ) 演示:ギター、ハーモニカ、コーラス、バンド演奏(子ども)、ミュージックベル、ひょっとこ踊り、日本舞踊、大正琴、平和なとき(絵本の読み聞かせ) 体験コーナー:飛び出すカードを作ろう 保健センターによる健康相談 模擬店:焼きそば、かけそば、五目ずし、赤飯、ポップコーン、クッキー 手づくり小物 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	
第33回白梅まつり	5月24日	展示のひろば:陶芸、子ども創作・絵画、書道、パッチワーク、トルペイント、俳句、絵手紙、創作童話、写真、熊川分水研究などの作品展示や紹介 屋外:模擬店、陶器・盆栽などの展示、絵手紙体験コーナー、復興支援(福島県飯館村の物産販売) 子どものひろば:楽しいくじ引きコーナー、手づくり工作、ホットケーキ作り、輪投げなど 健康コーナー みんなで歌声コーナー 学童たんぼぼクラブけん玉パフォーマンス お茶席	1,082
「出会い発見 白梅まつり」	5月25日	展示のひろば 屋外・模擬店 子どものひろば 演示のひろば:大正琴、お囃子、社交ダンス・フラダンス・タヒチアンダンス、朗読、コーラス、オカリナ、太極拳、新舞踊などの発表	

平成27(2015)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第17回本館まつり	7月11日	演示部門:ダンス、ハーモニカ、大正琴、コーラス、ウクレレ、フラダンス、股旅舞踊、社交ダンス、マジック 展示部門:書道、絵手紙、絵手紙体験、ひょうたん展示、環境学習、おりがみ、笑いヨガ、写真 模擬店部門:焼きそば、パイナップルケーキ、ホットドッグ(本館ドッグ)、天ぷらそば、カレーライス、草だんご、鶏のさっぱり煮(ゆで卵付)、コーヒー(冷・温) 子ども遊び部門:射的、輪投げほか、昔遊び、草笛教室	3,170
「笑顔で輪になる本館まつり」	7月12日	演示部門:リコーダー、マンドリン、語り、郷土芸能、ハンドベル、吹奏楽、ウクレレ、コーラス、ジャズ演奏、腹話術、演芸、草笛 展示部門(内容は前日と同じ) 模擬店部門(内容は前日と同じ) 子ども遊び部門:セーフティキッズ、射的、輪投げほか、昔遊び	
第36回だれでもなんでも展	10月24日	展示:生け花、絵画、陶芸、写真、押絵、刺し子、編み物、折り紙、押し花、ドールハウス、切り絵、ビーズ、篆刻、竹細工、籐かご、神楽面、絵手紙、書、盆栽、刺繍、夏休み子ども教室参加者作品等 演示:大正琴、ひょっとこ踊り、手話ダンス、オカリナ、草笛、ウクレレ、しの笛、フラメンコ、ポップス、童謡、平和なとき(絵本の読み聞かせ) 体験コーナー:野草アレンジメント、切り絵 模擬店:焼きそば、かけそば、赤飯、五目寿司、ポップコーン、フランクフルト 喫茶コーナー:コーヒー、紅茶、パイナップルケーキ、白玉ぜんざい	1,104
「手をつなごうみんなでつくるなんでも展」	10月25日	展示(内容は前日と同じ) 演示:フープダンス、ギター、ハーモニカ、腹話術、コーラス、着物の着方、マジック、新舞踊 体験コーナー:折り紙 保健センターによる健康相談 模擬店:焼きそば、かけそば、赤飯、五目寿司、ポップコーン、クッキー 手づくり小物 喫茶コーナー(内容は前日と同じ)	

事業名	実施期間	内容	人数
第34回白梅まつり 「わくわくするよ！白梅まつり」	5月23日	展示のひろば：陶芸、子ども創作・絵画、書道、パッチワーク、トールペイント、俳句、絵手紙、創作童話、写真、熊川分水研究などの作品展示や紹介 屋外：模擬店、陶芸・盆栽などの展示、絵手紙体験コーナー、復興支援（福島県飯館村の皆さんの手作り作品販売） 健康コーナー みんなで歌声コーナー 学童たんぼぼクラブけん玉パフォーマンス お茶席	1,061
	5月24日	展示のひろば 屋外・模擬店 子どものひろば 演示のひろば：お囃子（はやし）、社交ダンス・フラダンス・タヒチアンダンス、新舞踊、朗読、コーラス、オカリナ、フォルクローレ、太極拳などの発表	

平成28(2016)年度

事業名	実施期間	内容	人数
第18回本館まつり 「ひろげよう 本館まつりの輪と和とワ」	7月8日	演示部門：ハーモニカ、マンドリン、大正琴、コーラス、ダンス、ウクレレ、腹話術、マジック、朗読、社交ダンス 展示部門：書道、絵手紙、絵手紙体験、ひょうたん展示、環境学習、おりがみ、笑いヨガ、写真、青年学級にじのはらっぱ 模擬店部門：焼きそば、パイナップルケーキ、ホットドッグ（本館ドッグ）、カレーライス、草だんご、鶏のさっぱり煮（ゆで卵付）、コーヒー（冷・温） 子ども遊び部門：射的、輪投げほか、昔遊び	2,026
	7月9日	演示部門：演芸、リコーダー、フォルクローレ、郷土芸能、朗読、吹奏楽、ウクレレ、コーラス、股旅舞踊、草笛 展示部門（内容は前日と同じ） 模擬店部門（内容は前日と同じ） 子ども遊び部門：射的、輪投げほか、昔遊び、草笛教室	
第37回だれでもなんでも展 「宝箱あけてびっくり地域のちから」	10月15日	展示：篆刻、生け花、水彩画、油彩画、鉛筆画、パステル画、和紙絵画、陶芸、写真、押絵、手作り雑貨、リメイク品、パッチワーク、切り絵、編み物、ビーズ、盆栽、竹細工、俳句、絵手紙、書道作品、壁面飾り、夏休み子ども教室参加者作品 演示：大正琴、コーラス、手話ダンス、ウクレレ、しの笛、英語の歌、ハーモニカ、新舞踊、童謡、平和なとき（絵本の読み聞かせ） 体験コーナー：野草アレンジメント、切り絵 模擬店：焼きそば、かけそば、五目ずし、赤飯、ポップコーン、フランクフルト 喫茶コーナー：コーヒー、紅茶、パイナップルケーキ、白玉ぜんざい	1,237
	10月16日	展示（内容は前日と同じ） 演示：草笛、オカリナ、かっぽれ踊り、ギター、フラメンコ、ひょっとこ踊り、カントリーラインダンス、腹話術、マジック 体験コーナー：シュロの葉っぱでバッタを作ろう、折り紙 保健センターによる健康相談 模擬店：焼きそば、かけそば、五目ずし、赤飯、ポップコーン、クッキー 手づくり小物 喫茶コーナー（内容は前日と同じ）	
第35回白梅まつり 「楽しい出会い 白梅まつり」	5月28日	展示のひろば：陶芸、子ども創作・絵画、書道、パッチワーク、トールペイント、俳句、絵手紙、創作童話、写真、熊川分水研究などの作品展示や紹介 屋外：模擬店、陶芸作品の展示、絵手紙体験コーナー、復興支援（福島県飯館村の皆さんの手作り作品販売） 子どものひろば：プラ板工作、ホットケーキづくり、射的ダーツ、楽しいじ引きコーナーなど 健康コーナー みんなで歌声コーナー 学童たんぼぼクラブけん玉パフォーマンス お茶席	1,100
	5月29日	展示のひろば 屋外・模擬店 子どものひろば 演示のひろば：お囃子（はやし）、大正琴、社交ダンス・フラダンス、新舞踊、コーラス、オカリナ、太極拳などの発表	

趣味と公民館のまつり

小野 豊

「広報ふっさ」に松林分館でマジック講座があることを知り、応募したのが初めて公民館に行くきっかけであった。それは、はるか遠い昔で30歳をちょっと越えたころだっただろうか。

同分館では秋にもなると、「だれでもなんでも展」というミニ文化祭が開催される。自分の出番には時間があるので、市内のコートでテニスを楽しんでいると、管理人から呼び出しがあり、事務所の電話に出ると職員さんが「そろそろ出番なので、来て欲しい」と。自転車を飛ばし、マジックを皆さんに喜んでもらった後、再びコートに戻り汗をなが



していた。今思えばたいそう無責任なことをしたものだと思う。あるときは、演示会場である2階の大集会室に自転車を運び上げ、紙芝居屋のおっさんになり、自分が子どもの頃見た場面を再現し、今の子どもたちに披露し喜んでもらった。

本館の調理室を利用し、「男の台所」なる料理サークルで昔の少年だった人たちと月一回、楽しんでいる。さらに料理の腕をあげるべく「本館まつり」の模擬店部門に入れてもらい、主婦たちの料理のコツをこっそり学んでいる。ある年、豚汁当番のまとめ役を任されたときのことだ。ある主婦は「お湯が沸騰してからお肉を入れているわ」、もう一方の主婦「お肉は先に炒めてからが良いのよ」と押し問答。どちらも自分の意見を取り下げる気配は全くない。それはそうだ、彼女らは何十年、自分のやり方を貫き通してきたのだから…。こりゃ参った。まとめ役としてどうする？結局A子さんには初日を仕切ってもらい、B子さんには二日目を仕切ってもらうことにした。それと同時にお互いのやり方に文句をつけないことを条件にこの件は落ち着いた。が、自分にとって良い勉強となった。

まつり開催中、調理室は芋でも洗うように大勢の人でごったがえしている。多くの担当者が天ぷら蕎麦をはじめ、カレーライス、草団子、ホットドック改め本館ドッグ、鶏のさっぱり煮、それと先ほど述べた豚汁などメニューは多彩なのだから。ある年、カレー用のご飯が炊けていない。炊飯器を同じコンセントから取っていたので、ブレーカーが落ちてしまったのだ。そのブレーカーが館内のどこにあるのか分からない。結局、さくら会館まで炊飯器を抱え、なんとか急場を凌いだ。そういえば煙と暑さで感知器が働いてしまったこともあったっけ。

松林で学んでいるマジックを本館の舞台でも演じたいと思っていたが、同まつりは本館に所属している団体の発表であり、他館からでは発表できない。そこで、本館では英会話サークルに所属しているので、英会話サークルで発表することにした。観客は英語で寸劇でもやるのかと思っていたのに、マジックを披露したのだから驚かれたことでしょう。

私にとって公民館は、一言で言えば、自分が好きなこと、やりたいことを学習する場所を提供してくれるところだと思う。それに付随して、同じ趣味を持った者同士が集まり、学習することにより、多くの人と知りあうことは自分の人生を豊かにしてくれる。

サークル活動では日頃の練習の成果を人様に見せたい、見てもらいたいとする欲求が生まれる。ふっさ草笛サークルでは、春、桜満開の明神下公園の桜まつり特設会場、初夏の環境フェスティバルでは自然豊かな多摩川中央公園のげんき広場、市民音楽祭では市民会館大ホール、盛夏は七夕まつりの丘の広場、秋は市民文化祭と再度市民会館大ホールで楽しませてもらっている。

公民館開館 40 周年記念の年の「白梅まつり」

野島 延江

平成 29 年度の第 36 回白梅まつり実行委員長という大役を仰せつかりました。正直に言うと、まさか自分が実行委員長になろうとは夢にも思いませんでした。第 1 回実行委員会では委員長がなかなか決まらず、ジャンケンで勝った人が委員長になることで合意。私はジャンケンにとっても弱いので内心「しめしめ」と思いました。ところが、最終的に私が勝ち残ってしまい、実行委員長をやる事になりました。決まってしまった以上は、頑張って実行委員長の役割を全うすることを決意しました。



演示開会式の実行委員長挨拶

平成 29 年度の第 36 回白梅まつりの日程は、例年と違って福生第二小学校運動会の都合により、6月 10 日（土）と 11 日（日）に決まり、そのためか、発表する演習サークルの数が少し減りました。

白梅まつりの初日（6/10）は晴天に恵まれ、加藤育男福生市長からご挨拶をいただいた後に、実行委員長である私からの始まりの言葉で白梅まつりが始まりしました。私は、展示部門や模擬店部門などの各部門に「よろしくお願ひします」と朝の挨拶回りをした後に、実行委員会の模擬店を手伝いました。

二日目（6/11）の午後は、白梅分館の 2 階集会室で演習のひろばが開催されます。こちらでも実行委員長である私の挨拶で演習が幕明けする予定でした……。私自身も演習で発表する 1 人で、サークルの仲間たちと別部屋で準備しており、その安堵から実行委員長の立場を一瞬忘れてしまいました。白梅分館職員が「野島委員長、時間ですよ！」と大声で呼びに来られてはっと気づき、慌てて会場に入りました。演習会場で待っていた皆様には「うっかり自分の立場を忘れてしまいました」とお詫びし、演習が開会しました。そのよううっかりミスもありましたが、二日間とも晴天に恵まれ、お客様も大勢お越しくださり、盛大に無事に終えることができました。

福生市公民館開館 40 周年記念という節目の年に白梅まつり実行委員長を仰せつかった重みを改めて実感し、何事にも変えがたい貴重な経験をさせていただきました。

7 「公民館のつどい」と公民館

公民館のつどいは、市民が実行委員会形式で一から作り上げる催しである。この催しは昭和 57(1982)年 7月に始まり、平成 28(2016)年度で 35 回を迎えた。公民館のつどいは公民館 3 館の利用者を中心とした市民が毎年一度の本番に向けて、複数回の実行委員会を行い継続してきた。

今日までの 10 年は、公民館のつどいの現在のスタイルが確立された年月である。

それまで、初期は学習会と交流の混在、全体会と分科会を行う方式と、公民館のつどいは度々様相を変え、その時代の公民館利用者のニーズに応じてきた。各館から三役を除き任意に集まる実行委員であるため、毎年実行委員の入れ替わりが発生する中でテーマを形成する、ある意味で不定形な催しといえる。不確定要素を含む実行委員会形式の催しにおいて、この「不定形」であることは一種の理想形であると考えられる。今日の公民館のつどいにおいても、この在り方は失われていない。

決まった形が存在しないということは、自由な思考が許されているということと言い換えられる。この公民館のつどいにおいて、実行委員会に参加する市民は以下の趣旨に基づき、自由な発想でこの催しを構築していった。

公民館のつどいの趣旨

- 1 出会い、知り合い、交流していくために、各分野をこえた交流の場としていきたい。
- 2 公民館で活動することの意味を考えていきたい。
- 3 活動し、交流し合う中で、生活や地域の課題



を考えていきたい。

- 4 つどいがひとつのきっかけとなって、後に横につながりあえる場を持ち続けていきたい。

この趣旨は、現在も実行委員会のたびに会議の冒頭で読み上げ、確認している。実行委員会の参加者が変わったとしても継続していくべき場面である。

これらに基づき、公民館のつどいの各年度の内容は市民の自由かつ柔軟な思考で話し合われ、決定されてきた。この 10 年において確立された「定型」は、そんな自由な市民の話し合いで決定されてきた、不定形から生まれた定型がテンプレート化されたものといえる。

もちろん毎年変化のない催しを行っているということではなく、この 10 年において提示された定型とは、市民が求める学習の在り方であると考えられる。

詳細は各年度の記録にて解説されるが、この「学習の在り方」が提示されたのは平成 19(2007)年度、第 26 回公民館のつどいであったと考察される。

このときに催された内容はそれまでの全体会・分科会の方式から外れ、当時コーディネーターをつとめた朝岡幸彦氏から提示された「パネショッパ」と称される方法で行われた。これは朝岡氏の造語であると当時の記録集には記載されている。パネルディスカッション

とワークショップを組み合わせた、参加者全員が発言できることを特徴とする学習会の方法である。

第26回公民館のつどいではこの方法が採用され、利用者から選定されたパネリストの事例報告の後に、「あなたも私も輝こう 公民館の学びから」のテーマに沿って朝岡氏の提示した課題に基づきグループ討議が行われた。

この年度から現在に至るまで、参加者全員が発言することが可能となる「課題やテーマを設定したグループ討議」は「ワールドカフェ」の方法をとるなど、毎年欠かさず行われている。また、例外はあるものの、前半に公民館利用者による事例報告を行う「パネショップ」の方式は度々採用され、この10年の間における公民館利用者の学びのニーズに則した学習方法であったと考えられる。

このような事例報告を行わなかった年度の例に挙げられるものが、平成26(2014)年度の第33回公民館のつどいである。

この年度は「アンケートから見えること」とテーマに記してあるとおり、事前に公民館利用者を対象に行ったアンケートを分析し、その内容を受けて「サークル活動をより楽しむために」と各々公民館サークルのこれからを見据えたグループ討議を行った。

これら10年の公民館のつどいの流れが示す学びの定型、朝岡氏の提示した「パネショップ」に則した学習方法が今日まで催しの中で継続しているのは、市民の「他者を知りたい」「自身を知ってほしい」という学習における欲求の証であると考えられる。

公民館利用者による事例報告や利用者を対象としたアンケートは、参加者にとっては同じ福生市公民館で活動する他サークルを知る

こととつながり、グループ討議は互いに知り合うことにつながる。事実、この数年の実行委員会では「自身が活動していない他館のことを知りたい」「他サークルの活動継続の秘訣を知りたい」「自身の活動の紹介をしたい」という意識が見られる。サークルがより長く活動を継続するために他に学び、より知り合うために話し合い、他者に自身の活動やその楽しさを伝えるために交流し、学びあう。今日に至る公民館のつどいの10年は、そういった市民の学びへの欲求により歩んできたものといえる。

上記趣旨にもあるように公民館のつどいの原点は交流であり、互いに知り合うことも含まれている。この10年の学習方式の確立は、公民館のつどいの原点に立ち返り、市民のずっと求めてきた学びに適したスタイルを見つけた、ということなのかもしれない。

公民館のつどいにおける学びや交流、その内容は、市民が一から作り上げるほかにはないものである。この催しが市民により継続され、今後も市民が主体となり自由な発想で学びを深めていくことは、公民館の本来あるべき姿であると考えられる。



第32回公民館のつどい 平成25年11月23日

公民館のつどい

第26回公民館のつどい 平成19(2007)年11月25日(日)午前9時40分～午後1時

テーマ あなたも私も輝こう 公民館の学びから

実行委員長 高橋孝明

助言者	内容	参加人数
朝岡 幸彦氏 (東京農工大学教授)	「パネショップ」と称した、パネルディスカッションとワークショップを組み合わせた、公民館利用者による事例報告と助言者の提示した課題に沿ったグループ討議を行った。課題は ①「みんなにとって輝ける活動とは何か？」 ②「何か共通性はありますか？発見する」 ③「そのためには、公民館は何が必要でしょうか？」	99

開催期間に合わせ、サークル活動や事業の展示を行った。

平成19(2007)年度 実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	7月18日(水) 午後7時30分～	実行委員長・副実行委員長(白梅)の選出。どんな「つどい」にしていきたいか。公民館・地域・サークル等が抱える問題提起	16
2	8月7日(火) 午後7時～	副実行委員長(松林)の選出。公民館で活動する意義、「学ぶ」ということについて改めて考えていくなど、内容やテーマについての議論。当日の構成についての討議	18
3	8月29日(水) 午後7時～	「どんなつどいにしていきたいか」の議論の中からテーマの決定(多数決)。当日の構成について、パネルディスカッションに決定。予算についての確認	18
4	9月11日(火) 午後7時～	ディスカッションの具体的な内容についての議論、企画委員の選出。開会セレモニー、オープニングの内容確定。ポスター・チラシの作成決定(事務局中心)	16
5	10月4日(木) 午後7時～	内容の検討、パネラーの選出、コーディネーターの選定。お茶やお茶受けについての議論。展示スペース、終了後の自主企画についての議論	15
6	10月23日(火) 午後7時～	ポスター案の修正。パネルディスカッションの内容についての進捗報告。当日の役割に関する確認。展示・自主企画の進捗状況報告。記録集の内容検討	11
7	11月9日(金) 午後7時～	当日ディスカッションと討議の進捗報告・確認。アンケートの内容検討。展示・自主企画に関する進捗報告。チラシの作成・配布についての予定・報告	14
8	11月22日(木) 午後5時～	パネルディスカッションの内容・進行の確認とそれに伴うワークショップについての内容討議・確認。会場レイアウト、当日の流れについての確認	6
9	12月14日(金) 午後7時～	反省会(当日の催し、企画や展示についての振り返り)。来年度のつどい、第1回実行委員会の日程の決定。記録集作成についての確認	15

第27回公民館のつどい 平成20(2008)年11月24日(月・祝)午前9時30分～12時40分

テーマ ～つなごうつどいの輪 広げよう交流の輪～

実行委員長 田中加代

助言者等	内容	参加人数
なし	本館「本館のなやみについて」、松林「サークル活動を通して交流し見えてきたもの」、白梅「白梅まつりが地域に密着していることについて」の事例発表ののちにグループ討議、発表を行い、伊東館長がまとめを行った。	67

第2章 公民館10年のあゆみ 7 公民館のつどい

平成20(2008)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
1	6月13日(金) 午後7時30分～	昨年度の振り返り。「つどい」に対する展望の確認。実行委員長・副委員長の選出予告。「つどい」についての語り	12
2	7月9日(水) 午後7時～	実行委員長・副委員長の選出。「どんなつどいにしていきたいか」の討議。広報PR方法についての確認。今後のスケジュールについての確認	17
3	8月27日(水) 午後7時～	前回実行委員会を受け、各館での話し合いの報告。「どんなつどいにしていきたいか」の討議。内容(パネルディスカッション)の決定	12
4	9月18日(木) 午後7時～	テーマの決定。タイムスケジュール案の提示。予算等についての確認	7
5	10月16日(木) 午後7時～	タイムスケジュールの確定。オープニングの決定・確認。パネラーについての進捗状況報告。広報・ポスター・チラシについての報告	13
6	11月14日(金) 午後7時～	パネルディスカッションの進捗報告。当日の役割分担の決定・確認	不明
7	12月3日(水) 午後7時～	当日・実行委員会の振り返り。次年度に向けての日程確認。コーヒーとクッキーの会計報告	10

第28回公民館のつどい 平成21(2009)年11月14日(土)午前9時30分～午後1時

テーマ 見直そう、公民館の底力！！

実行委員長 佐々木京子

助言者等	内容	参加人数
なし	各館それぞれが決めた、本館「公民館活動全般について」、松林「生き生き活動するには、どうしたらいいのか」、白梅「どこが違う？福生の公民館」というテーマに沿った発表の後、フリートークを行い、伊東館長がまとめを行った。	78

平成21(2009)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
1	6月12日(金) 午後7時～	実行委員長・副実行委員長の選出(予告)。実施日の確認。「どんなつどいにしていきたいか」討議	15
2	7月18日(土) 午前10時～	実行委員長・副実行委員長の承認。前回実行委員会からの各館の議論報告。問題提起と意見交換	20
3	8月29日(土) 午後3時～	当日の形式の討議・決定。スローガンの決定。ポスターの納期の決定	25
4	9月19日(土) 午後1時30分～	各館の進捗状況の報告。タイムスケジュールの決定。ポスター作成の報告。招待状送付先の確認	15
5	10月24日(土) 午前10時～	各館の進捗状況の報告。当日の役割・流れの確認。記録集作成についての討議	20
6	11月28日(土) 午後1時30分～	当日を振り返っての感想。反省、全体の振り返り。次年度に向けての日程確認。次回に向けた提案の作成	18

第29回公民館のつどい 平成22(2010)年11月20日(土)午前9時30分～午後1時

テーマ 3館の特色ある公民館活動

実行委員長 田中宏幸

助言者等	内容	参加人数
なし	公民館各館の特徴・特色についての発表ののちにそこから見えてくる課題についてのフリートーク(グループ討議)を行った。	106

平成22(2010)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月24日(土) 午前10時～	準備会。つどい開催の確認。日程の確認。実行委員長の選出	不明
1	7月3日(土) 午前10時～	実行委員長・副実行委員長の選出・承認。「どんなつどいにしていきたいか」各館の意思・抱負発表。討議。実行委員会運営に関する議論	15
2	7月17日(土) 午後2時～	「どんなつどいにしていきたいか」各館の意見集約・討議・内容の決定。テーマ及びキャッチフレーズ案の提出・確認	14
3	8月21日(土) 午前10時～	テーマ・キャッチフレーズの決定。具体的な内容・形式に関する討議。ポスター作成者の選定	15
4	9月11日(土) 午後2時～	各館の進捗状況の確認。ポスター・チラシ案のブラッシュアップ。グループ討議の指針に関する討議	13
5	10月23日(土) 午前10時～	事務的内容の確認。当日の内容の確認。オープニングの決定。各館の進捗状況の確認。会場設営・準備の確認。記録集作成についての討議	15
6	12月3日(金) 時間不明	当日の感想発表。開催当日・実行委員会の振り返り。次年度に向けての日程確認。記録集における原稿提出の確認。コーヒーコーナーの収支報告	不明

第30回公民館のつどい 平成23(2011)年11月26日(土)午前9時30分～正午

テーマ もし福生で大地震が起こったら?～防災マップから学ぼう!～

実行委員長 加藤孝子

講師	内容	参加人数
横倉成昭氏 (福生市安全安心 まちづくり課)	東日本大震災を受け、上記テーマで講演とDVD上映。質疑応答ののちにフリートーク(グループ討議)を行った。	68

平成23(2011)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月23日(土) 午前10時～	準備会。今年度の実施についての意見交換。実行委員長・副委員長の選出。実行委員会の日程の確認	17
1	6月18日(土) 午後7時～	実行委員長・副実行委員長の承認。実行委員会の日程と役割分担の確認。内容について各館からの討議内容報告。問題提起と意見交換	16
2	7月23日(土) 午後7時～	震災に関する問題提起ののち、内容・テーマの決定。「つどいのできること・学びたいこと」に関する意見交換	17
3	8月19日(金) 午後7時～	事務的内容の確認。各館からの意見報告。具体的な内容に関する議論・決定。キャッチフレーズの決定	18

第2章 公民館10年のあゆみ 7 公民館のつどい

回	日時	内容	人数
4	9月17日(土) 午前10時～	展示の検討。グループ討議(フリートーク)の内容に関する議論。ポスター、チラシデザイン決定の方法を決定。学習内容の決定	15
5	10月21日(金) 午後7時～	三役会報告(看板等の作成者、オープニング出演者の内定。義捐金についての議論報告。アンケート修正案の提出)。研修等参考報告。明確なテーマ設定	17
6	11月12日(土) 午前10時～	前日準備、当日役割分担の確認。講演、フリートークの内容確認。記録集作成についての議論	14
7	12月4日(日) 午後7時～	各館から感想の報告。前日・当日・実行委員会の振り返り。記録集の発行についての確認。次年度についての日程確認	13

第31回公民館のつどい 平成24(2012)年11月25日(日)9時30分～正午

テーマ 楽しく充実したサークル活動をするには！

実行委員長 小野 豊

助言者	内容	参加人数
松田 恵示氏 (東京学芸大学教授)	テーマに基づいた助言者の導入の後「ワールドカフェ」方式での話し合い、各グループの発表。最後に助言者によるまとめが行われた。	85

平成24(2012)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月21日(土) 午前10時～	準備会。つどい当日・実行委員会の日程確認。実行委員長・副実行委員長の選出。予算の確認	18
1	6月23日(土) 午前10時～	実行委員会の日程確定。実行委員長・副委員長の確定・承認。内容「ワールドカフェ」方式の検討	15
2	7月21日(土) 午前10時～	テーマについての討議・決定。グループ発表の内容についての討議。ポスター・チラシの担当募集の呼びかけ	11
3	8月18日(土) 午前10時～	内容・形式についての討議。事務的内容の確認。「ワールドカフェ」方式を正式採用	13
4	9月15日(土) 午前10時～	コーディネーターの確定。オープニング・タイムスケジュールの確定。ポスター・チラシの校正	16
5	10月27日(土) 午前10時～	当日各役割分担の決定、動きの確認。反省会日程確認	11
6	12月15日(土) 午前10時～	反省会。当日の振り返り、報告。感想・反省点の集約。実行委員会における反省点の集約。記録集についての様式・作業日程の確認	10

第32回公民館のつどい 平成25(2013)年11月23日(土・祝)午前9時30分～正午

テーマ 公民館再発見！～たのしさ・まなび・ひろがり～

実行委員長 野中 勝

助言者	内容	参加人数
伊東 静一氏 (東京学芸大学 非常勤講師)	小野豊氏による事例発表の後、助言者による論点整理。「どうしたら学びの楽しさや人間関係を広げることができるのか」をテーマにグループ討議を行った。	93

平成25(2013)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月20日(土) 午前10時～	準備会。実施の確認。予算の確認。実行委員会の日程・会場確認	9
1	6月22日(土) 午前10時～	実行委員長・副実行委員長の選出・承認。テーマ・内容について各館の討議内容報告 当日の基本的な方針の確定	12
2	7月13日(土) 午前10時～	テーマ・内容についての意見集約。基本方針の確認。テーマの土台確定	16
3	8月31日(土) 午前10時～	テーマの確定。内容についての討議、方向性の確定。オープニング・ポスター作成担当の 確定	16
4	9月28日(土) 午前10時～	事例発表者・当日討議方法の確定。助言者候補の設定。タイムスケジュール設定	12
5	11月9日(土) 午前10時～	会場レイアウト、当日役割分担の確定。記録集における各記事の担当者選出	13
6	12月21日(土) 午前10時～	実施概要の報告。当日の感想・振り返り。反省点の抽出。次年度の内容において、アン ケートの実施確定。内容案の討議の場の設定	13

第33回公民館のつどい 平成26(2014)年11月29日(土)午前9時30分～正午

テーマ サークル活動をより楽しむために～アンケートから見えること～ 実行委員長 山西年男

助言者	内容	参加人数
伊東 静一氏 (元福生市公民館長)	前年度から企画されていた公民館利用者に向けたアンケートを実施。集計後に冊子状に まとめ、当日課題を抽出。これらの解説後、グループ討議を行った。	83

平成26(2014)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月19日(土) 午前10時～	準備会。前年度からの引継ぎ、アンケート実施の確認。実行委員長・副実行委員長の選 出。実行委員会日程案の検討・確定	14
1	6月21日(土) 午前10時～	実行委員長・副委員長の承認。アンケートの集計結果報告、解説。テーマ・内容の決め 方、指針の確定	15
2	7月19日(土) 午前10時～	アンケート結果におけるポイントの集約、意見交換、質疑応答。当日の内容について各館 からの意見報告、討議	16
3	8月30日(土) 午前10時05分～	アンケート結果における課題・問題点の抽出。そこから浮かび上がる内容・テーマについ ての討議	27
4	9月27日(土) 午前10時～	課題の整理。テーマの抽出、決定。内容の討議、助言者の有無の決定。ポスター・チラシ の担当者決定	15
5	10月18日(土) 午前10時～	助言者の決定。タイムスケジュールの設定。オープニング内容の仮決定。ポスター・チラ シデザインの決定。事務的内容の確認	18
6	11月15日(土) 午前10時～	オープニング内容の確定。当日の役割分担の確定、確認。記録集掲載項目の確認	15
7	12月20日(土) 午前10時～	当日実施概要の報告。当日・実行委員会の振り返り。記録集の原稿収集状況の報告、作 業日程の連絡	15

第34回公民館のつどい 平成27(2015)年11月28日(土)午前9時30分～正午

テーマ 交流～広げていこう地域の輪～

実行委員長 薄葉康男

助言者等	内容	参加人数
なし	公民館3館の特徴や魅力についての発表後、「交流」をテーマにグループ討議を行った。	88

平成27(2015)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月18日(土) 午前10時～	準備会。実施確認と実行委員会の日程確認。記録集の作成確認。第1回実行委員会に向けて方向性についての意見集約	20
1	5月30日(土) 午前10時～	実行委員長・副実行委員長の選出。予算等の確認。テーマ・内容を決めるにあたっての指針についての討議	16
2	7月18日(土) 午前10時～	内容・テーマについて各館からの意見集約、討議	19
3	8月22日(土) 午前10時～	内容・テーマについての討議。「副題」の決定	21
4	9月26日(土) 午前10時～	具体的な内容の確定。タイムスケジュールについての検討。ポスター案の提示	12
5	10月17日(土) 午前10時～	オープニングの確定。前日・当日の役割等の確認	14
6	11月21日(土) 午前10時～	タイムスケジュールの確認。役割分担の確認。グループ討議についての内容確認。各種日程確認	16
7	12月19日(土) 午前10時～	実施報告。全体の振り返り。意見の要点、課題の抽出。記録集についての日程確認。次年度の日程確認	17



第35回公民館のつどい 平成28(2016)年11月26日(土)午前9時30分～正午

テーマ 楽しい交流～見たい・知りたい・伝えたい

実行委員長 杉山公代

助言者等	内容	参加人数
なし	「サークル活動と地域とのかかわり」をテーマに各館から選定したサークルが発表を行い、同テーマのグループ討議を行った。	102

当日展示:サークルPRポスターの作成を依頼。当日、会場で展示を行った。

平成28(2016)年度 実行委員会

回	日時	内容	人数
	4月16日(土) 午前10時～	準備会。日程確認。実行委員長・副委員長の選出。予算の確認。記録集の作成についての確認。各館の情報交換	30
1	6月25日(土) 午前10時～	実行委員長・副実行委員長の承認。内容について各館からの意見集約・討議	24
2	7月16日(土) 午前10時～	内容における基本的指針の確定。テーマ・キャッチフレーズの仮決定	21
3	8月27日(土) 午前10時～	内容における主題確定。テーマ・キャッチフレーズの確定	24
4	9月17日(土) 午前10時～	ポスター素案の確定。タイムスケジュール確定。当日展示についての詳細確定	21
5	10月22日(土) 午前10時～	オープニング担当の内諾報告。各館のサークル発表についての進捗報告。当日役割・会場レイアウト等の確認。事務的内容の確認	30
6	11月12日(土) 午前10時～	タイムスケジュール、会場、日程等の最終確認。役割分担の確定。サークルPRポスターの回収状況の確認	24
7	12月17日(土) 午前10時～	実施報告。全体の振り返り、意見の集約。記録集についての作成状況報告、作業日程確認。次年度の日程等の確認	18



8 男女共同参画フォーラム

男女共同参画フォーラムと公民館

昭和 50 (1975) 年、国際婦人年とその後の国連婦人年の 10 年が開幕。女性問題 (当時は婦人問題と称した) の解決は世界が取り組む課題とされた。昭和 54 (1979) 年、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が国連で採択され、昭和 56 (1981) 年に発効、日本は昭和 60 (1985) 年批准した。このような時代背景の中、福生市公民館では開館 (昭和 52 (1977) 年) 以来、女性問題講座などを行ってきた。

福生市公民館における女性問題学習の流れを振り返ると、公民館が開館してからの 10 年間は、公民館を拠点として女性たちが自らの生活の新たな可能性を見つけ、仲間とともに活動していく場として定着させていく過程であった。これが、公民館が設置されて 20 年にわたるまでに、女性がより輝いて生きていけるように、学習問題もさまざまなアプローチの方法を取りながら女性問題の解決を目指したものに变化した。

昭和 58 (1983) 年 7 月に「第 2 回公民館のつどい」の中で『女が学ぶこと』という分科会が、サークルや講座参加者の企画・運営により行われた。これが福生市の男女共同参画フォーラムの前身となる。この公民館のつどい分科会をきっかけとして、同年 9 月に『女が学ぶことパートⅡ』が開催された。公民館のつどい分科会の記録作りなどを共同で行う中、世話人集団が形成され、つどい分科会での課題を継続的に学習・集会活動に展開していった。昭和 59 (1984) 年 2 月に『女が学ぶことパートⅢ』、7 月に第 3 回公民館のつどい

分科会『女が働く意味を問うー自立への足がかりー』へと続く。

世話人集団を核とした市民の継続的な学習を背景に、昭和 60 (1985) 年 2 月に『女のつどいー婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約から学ぶー』を開催。そのメンバーが企画から関わり、5 月からの公民館主催事業「差別撤廃条約とわたしたち」へと展開し、そして講座終了後、参加者を中心に福生市婦人問題連絡会 (後に福生市女性問題連絡会と改称) が発足した。

婦人問題連絡会は同年 9 月に「福生市の婦人行政に関する要望書」(①福生市における婦人問題を解決するための行動計画の策定 ②福生市における婦人に関する実情の調査・研究 ③福生市における婦人に関する専門窓口の設置) を市長に提出した。この婦人問題連絡会は『女のつどい』や講座の企画に精力的に活動を展開していた。そして、この間の公民館の女性事業として特筆すべきことは、平成 4 (1992) 年 10 月 17 日 (土) に第 1 回ふっさ女性フォーラム・講談「山下さんちの物語ー女性問題入門編ー」が市民会館小ホールで開催されたことだった。

フォーラムは参加者をより一層広げ、より多くの市民に女性問題を知ってもらい、解決へ向けてともに実践していくきっかけとなるように、誰もが参加できるスタイルで行われた。これらを実施していくために市民参加による組織化が図られ、実行委員会「ふっさ女性フォーラムをすすめる会」が結成された。また、同時開催としてパネル展示を実施している。

それ以後のフォーラムは、企画・運営は市民の参加による「ふっさ女性フォーラムをすすめる会」において行われており、「すすめる会」自体も大切な学習の場となっていた。スタート当初は「福生市女性問題連絡会」を中心とした「すすめる会」であった。その当時のフォーラムの内容は、多くの市民とともに女性問題を考えるきっかけとするために著名人の講演などが多いことが特徴となっている。

時代とともに「ふっさ女性フォーラム」という名称も変化した。平成 11 (1999) 年、男女共同参画社会基本法が施行され、平成 13 (2001) 年度から「ふっさ女と男のフォーラム」に改称、平成 18 (2006) 年度からは現在の「男女共同参画フォーラム」に改称された。

平成 18 (2006) 年と 19 (2007) 年は、白梅分館で行われた保育室併設講座の参加者（幼児を持つ女性が中心）が実行委員会を結成した。実行委員一人ひとりが自らの足下の課題に目を向け、その解決に向けた企画を考え、運営した。しかし実行委員会には、託児が無く、講座終了後、親子同室で自分の子どもたちを見ながらの会議だったため、度々中断したり、話の内容がまとまらなかったりと課題が多かった。子育て中の女性が実行委員をするには、やはり安心して預けられる条件整備

が必要だと要望し、平成 20 (2008) 年度は実行委員会をフォーラム準備講座として実施した。子どもを安心して預けられる中、実行委員は学習を深め合いながらフォーラムの企画を作り上げていくことが出来た。

平成 4 (1992) 年からのフォーラムの実行委員には、女性問題連絡会等の固定メンバーが毎年参加したことによって、彼女たち個人に理念やフォーラムの企画・運営に関わるノウハウが蓄積され、これに公民館職員が関わっていくことによって事業の継続的实施が可能となっていた。次第に公募での参加者など、連絡会以外のメンバーも加えて行われるようになってはきていたが、実行委員のメンバーを増やしていくことや層を広げていくことが大きな課題となっていた。結果として、公民館が設置され、30 年目を迎えるまでに、フォーラムは大きな変化、転換を迫られることになった。

その過程では女性問題連絡会の会員が実行委員会に参加しなくなり、公民館との直接的な関わりがなくなり、フォーラム実行委員会を設置できず、職員主導で実施したり、イベント型になったりしたこともあった。別の見方をすれば、市民の就労形態と家族構成、地域との関わり方が変化する中で、人間関係が希薄化し、さらに関係を深めなくても生活していける環境が整っていったこともあり、新たな市民参加が減少していくという面があった。また他課でも同じような取り組みがなされ、公民館における市民の学習支援への役割との違い等が問われていた。まさに、男女共同参画フォーラムの歴史は、福生市公民館の歴史であり、限界・課題でもあることを示していた。しかし、これまでの 40 年間の蓄積を

男女共同参画社会基本法(抜粋)
 第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は当該各号の定めるところによる。
 一 男女共同参画社会の形成 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成することをいう。
 二 (省略)

否定し、新たな事業展開をすればいいというものではない。

公民館設置の理念とその蓄積を念頭におけば、協働推進課が設置されて、類似する事業が展開されても、公民館は継続的に男女共同参画フォーラムを実施していくことが求められている。

市民が参画し、力量形成をしていく学習及びその蓄積の過程自体は評価されるべきものであり、何を継承し、何を創造していくのがその中で問われることになる。

そのためには、フォーラムの事業体制を学習会として再び復活させ、子育て中の女性にも実行委員となってもらうために、保育を導入することも検討しながら、保育室併設講座との連結、また児童館や社会福祉協議会等との連携を視野に入れて、フォーラム実施のための企画・運営システムの再構築が図られる必要があろう。まさに平成20(2008)年以降における保育室併設講座とフォーラムの連結事業を足がかりに、新たな市民と公民館の協働を模索していくことが今後も求められよう。

そして、これからの10年間の事業展開こそが、男女共同参画というものをどう学び、自分の問題として落とし込んでいけるかが問われるのである。

はたして、男女共同参画という意識がしっかりと社会に浸透したのだろうか。表面的に見えづらくなっているだけで、根っこの部分ではまだまだ男女の差というものが人々の意識の中にはっきりと残っているのではないだろうか。

ここ10年のフォーラムの形式は、シナリオを作成しての朗読劇・演劇や事例発表者の話を聞いた後に、グループでの話し合いという

形をとってきた。これは男女共同参画ということ自分の身に引きつけて考えることができる反面、参加者頼みになってしまうところが大きい。今後、パネルディスカッション形式で実際に働きながら子育てや介護をしている人をパネリストとして招くことや、福生での女性史の掘り起こしに取り組み、冊子にして残していくなど、今後のフォーラムのあり方を工夫していく必要がある。

ここから先の10年は、更に世の中も多様になり、さまざまな特性の方や性別の方が増えていくだろう。それぞれの選択する事柄があればあるほど個別の生きづらさがある。この生きづらさを乗り越える男女共同参画が、啓発による一方的な言い方ではなく、公民館という市民の学習する場で丁寧な話し合い学習の積み重ねの中から男女共同参画の広がりが取り込まれ続けることは重要なことである。

自分の身近にある女性問題に気づき、地域の仲間と共に乗り越えていくための市民の主体的な学習の場は公民館に根ざし、これからも公民館を中心に広がっていくことであろう。



平成29年度 男女共同参画フォーラム「CMに登場する女と男、その姿好き？」話し合い風景

フォーラムの10年

平成19(2007)年度

第16回ふっさ男女共同参画フォーラム

「私が福生(ここ)で生きていくために」

私は自分の「人生」の主役として、輝いて生きているのだろうか。フォーラムでは、現在この福生で暮らしている年代の違う3人の事例発表を聞きながら、参加者と一緒に“福生(ここ)で生きていくこと”について考えた。

日時：平成20年3月2日(日)

午前10時～正午

場所：市民会館公民館第4・5集会室

事例報告者：谷 千佳氏(実行委員)

原島佳子氏(実行委員) 高橋洋子氏(小地域福祉活動支援員)

参加者：45人

実行委員会形式ではあったが、午前中の保育室併設講座の後、子どもたちと昼食を取りながら行っていたので、会議がなかなか進まなかった。子育て中の母親が実行委員として参加できるよう、保育をつけてほしいとの要望があった。

平成20(2008)年度

第17回ふっさ男女共同参画フォーラム実行委員会(託児付き講座として開催)

期間：平成20年5月29日～10月9日

全14回

第17回ふっさ男女共同参画フォーラム「私を育てるコミュニケーション語り合いたい自分の言葉でー」

私を育てるコミュニケーションって何だろう？女性も男性もより良く生きるために、

実行委員が事例を出しながらシナリオを作成し、朗読劇を演じた。その劇を見たあと、参加者とコミュニケーションのあり方や大切さを話し合った。

日時：平成20年10月5日(日)

午前10時～午後0時30分

場所：市民会館公民館第4・5集会室

助言者：辻 智子氏(早稲田大学非常勤講師)

朗読劇：実行委員

参加者：29人

平成21(2009)年度

第18回男女共同参画フォーラム実行委員会

期間：平成21年9月12日～

平成22年3月3日 全15回

参加者：延べ109人

第18回男女共同参画フォーラム「男女共同△ってなに？ー男の言い分 男の生き方ー」

男も女も人として生き生きと暮らすことを目指した男女共同参画社会。今回のフォーラムは、若い20代の男性からの「今の社会は女性が優遇されている。逆



差別ではないか」という意見がきっかけとなり、男性の視点で男女共同参画を考えてみようということになった。子育て中で働き盛りの40代男性と、定年退職後地域とのつながりを築いてきた男性に事例報告をしていただき、それをもとにグループで話し合った。

日時：平成22年1月23日(土)

午前10時～午後0時40分

場所：市民会館公民館第4・5集会室
助言者：村田晶子氏（早稲田大学教授）
事例報告者：飯島 稔氏（少年野球チームコーチ、会社員）、鈴木和善氏（日本野鳥の会会員）
参加者：46人

平成22（2010）年度

第19回男女共同参画フォーラム実行委員会

期間：平成22年7月3日～

平成23年2月22日 全14回

参加者：延べ91人

第19回男女共同参画フォーラム「男女共同参画の根をはる」



女性も男性もお互いに自立し、尊重しながら、自らの意志で生きることを目指す男女共同参画社会。今回のフォーラムでは、実行委員がシナリオを作成し、白梅分館で活動している「朗読の会 どんぐり」に朗読劇を演じていただき、それを題材にグループで話し合った。

日時：平成23年1月22日（土）

午前10時～午後0時30分

場所：市民会館公民館第4・5集会室
助言者：辻 智子氏（早稲田大学非常勤講師）
参加者：42人

平成23（2011）年度

男女共同参画講座「介護を考える」

日時：平成24年2月1日（水）・10日（金）・15日（水）午後7時～9時

今年度は、実行委員会形式ではなく、男女共同参画フォーラムのため事前講座を3回開催した。

家族が介護を必要とした時に、誰が介護を行うのか。介護保険を受けられるが、内容がわからない。また介護を行うにあたって仕事との両立をどうするのか、そして男性が介護をするときにどんな問題が起きるのかなどを話し合った。



第20回男女共同参画フォーラム「介護を考える」

日時：平成24年2月25日（土）

午前10時～正午

場所：市民会館・公民館 第4・5集会室
講師及びパネリスト：佐野英司氏（都能力開発センター非常勤講師・元白梅学園大学教授）、水下明美氏（ケアマネージャー）、内山順夫氏（男性介護ネット副代表・荒川区社会福祉協議会管理課長）

参加者：37人

平成24（2012）年度

第21回男女共同参画フォーラム実行委員会

期間：平成24年7月21日～

平成25年3月30日 全15回

参加者：延べ80人

第21回男女共同参画フォーラム「男子厨房に入らざれば、人生また楽しからずや」

「男女平等はもう当たり前」、「それなのになぜ男女共同参画社会の実現なんて取り上げるの？」という声が聞こえてくる。で

も、本当にそうなのだろうか？

表面的には男女差別など見えないが、私たちの生活や意識の中には、性別による役割分業が根強く腰を据えている。今回は、「男性の料理への参加」



をテーマにして30代男性と60代男性に事例発表してもらい、そこから見えてくることを一緒に考えた。

日時：平成25年1月26日（土）

午前10時～午後0時30分

場所：市民会館公民館第4・5集会室

助言者：中澤智恵氏（東京学芸大学教育学部准教授）

事例報告者：小野 豊氏（福生市公民館サークル「男の台所」代表） 長沢 巧氏（「西東京市パパクラブ」所属）

参加者：35人

平成25（2013）年度

第22回男女共同参画フォーラム実行委員会

期間：平成25年7月13日～

平成26年3月27日 全12回

参加者：延べ80人

第22回男女共同参画フォーラム「えっ！ そうなの？ お宅の家計～夫婦で話してる？」



「男女平等は当たり前」、そう思っている、ふと気がつくとも性別による役割分業が根強く残っている。今回は家計を題材にした朗読劇を

実行委員が作成し、劇団COLORSに演じてもらい、自らの意思をもって生きる男女共同参画を考えていった。

日時：平成26年1月25日（土）

午後1時～3時30分

場所：市民会館公民館第4・5集会室

助言者：藤掛洋子氏（横浜国立大学大学院教授）

朗読劇：劇団COLORS（公民館サークル）

参加者：29人

平成26（2014）年度

第23回男女共同参画フォーラム実行委員会

期間：平成26年6月7日～

平成27年5月13日 全13回

参加者：延べ51人

第23回男女共同参画フォーラム「女性がイキイキ働く？ そのウソとホント」

働く女性が増えている中、家庭との両立や仕事のことでも女性であるがゆえの悩みを感じる事が多くある。働くスタイルも企業に勤めたり、



NPOなど社会貢献に重きを置く仕事や、起業など、ライフスタイルや自分の価値観に合わせた働き方を選ぶ女性も増えている。働き方の見直しをしていくには、女性が「鍵」となると言われている。働き続けることを選んだお二人に話を聞き、男女共同参画社会での「働き方」について考えた。

日時：平成27年1月24日（土）

午後1時～3時30分

場所：市民会館公民館第4・5集会室
助言者：藤掛洋子氏（横浜国立大学大学院教授）
事例発表者：西山多恵子氏（福生市社会教育委員）、深谷友美子氏（認定NPO法人育て上げネット理事）
参加者：29人

平成27（2015）年度
第24回男女共同参画フォーラム実行委員会
期間：平成27年6月27日～
平成28年4月28日 全12回
参加者：延べ77人
第24回男女共同参画フォーラム「男女のさべ
つ 女だけじゃない、男もつらいよ」



平成26年度に福生市協働推進課が行った「男女共同参画に関するアンケート調査報告書」を実行委員が読み込んでいく中で、女も男もまだまだ差別を感じていることや理想と現実のギャップがあることに気付いた。その話し合いの中から、寸劇のシナリオを作成し、劇団COLORSに演じてもらい、参加者で話し合った。
日時：平成28年1月23日（土）
午後1時～3時30分
場所：市民会館公民館第4・5集会室
助言者：富永貴公氏（東海大学・東洋大学講師）
朗読劇：劇団COLORS（公民館サークル）
参加者：35人

平成28（2016）年度
第25回男女共同参画フォーラム実行委員会
期間：平成28年10月8日～
平成29年4月15日 全11回
参加者：延べ90人
第25回男女共同参画フォーラム「みんなで話そう♪男の子の育て方 女の子の育て方」

子育ては、長い人生の土台を作っていく大事な時期。自分の中に「男の子だから、女の子だから、こ
うじゃなきゃいけない」という思い込みがあるのでは
ないか。これからの



男女共同参画社会を担っていく子どもたちをどう育てるかは、世代を超えてみんなで考えていく課題。『おはなのすきなおおかみくん』の絵本を劇団COLORSに読んでいただき、グループでのフリートークを行う。その後、助言者の課題整理をもとにグループに分かれ、話し合いを行った。
日時：平成29年2月25日（土）
午後1時～3時30分
場所：市民会館公民館第4・5集会室
助言者：富永貴公氏（都留文科大学社会学科専任講師）
朗読：劇団COLORS（公民館サークル）
参加者：20人

男女共同参画フォーラムと公民館

秋山 典子

2017年度の男女共同参画フォーラム（以後、フォーラムと記す）を終えたその日、公民館 40 周年の記念誌への原稿を依頼されました。思い返してみると、30 周年記念誌のタイトルは「“キョウ” からあしたへ」でした。「あしたへ」とは、その後の 10 年がどのようなであったかを振り返るという事でしょうか。

その前に、私自身が関わり続けているフォーラムの出発は、1983年の「公民館のつどい」の一分科会「女のつどい」の企画担当をしたことにあります。今でも鮮明に記憶にあるのは、その分科会には 60 人以上の女性たちが集まり、急遽二つに分かれての話し合いになったこと、子どもをおぶって参加した女性をみて、60 代の女性たちが「赤ちゃんは、家で育てるもの。乳飲み子を抱えてこんな所に来るものじゃない。我慢が足りないわね」と浴びせた説教。まさに、この瞬間から女性の抱える現実の問題を意識した出来事でした。

1997 年頃から 2005 年までは、（私はフォーラム実行委員の主要メンバーから外れた時期）「ふっさ女性フォーラム」「ふっさ女と男のフォーラム」と名称を変え、著名な作家、映画評論家、ジャーナリストなどを招き、開催当日の参加者を 100～200 人と増やした実績（公民館 30 周年記念誌参照）がありました。

しかし、2006 年度には、「もう一度、暮らしに即した学びを土台として、実行委員会形式で、フォーラムを実施したいので、ぜひ協力をしてほしい」と公民館職員から依頼を受けました。以来、子育て中の女性を対象とした公民館講座に講師として関わったり、フォーラム実行委員として再び動き始めました。しかし、正直あまりその手ごたえは感じられませんでした。あの「女のつどい」の現場で遭遇したような女性に対する理不尽な現実（女は子育てが優先、女が女の解放を認めないというような）課題が、見えにくくなっていったからです。

あれから 34 年経ち、福生市は女性にとって、男性にとって、共に暮らしやすい社会に変わったでしょうか。「言ってはいけない差別的な言葉や態度」は知識として知っているのではない、触れないようにしているが、腹の底には疑問を残していないでしょうか。表面は男女平等が浸透していますので、何の問題もなく日常生活ができ、マスコミが取り上げるような重大問題（家庭内暴力、セクハラ、子どもへの虐待）は、我が問題としては考えられない。暮らしの中で女と男の間に潜む歴史的・社会的慣習（差別）には気づかない。思いがけず、突如として、それらの問題がわが身にふりかかったり、起こったりしない限り、他人ごととしか思えないのが、現状かもしれません。

このような矛盾に気づく学習はとても難しく、ひと工夫もふた工夫も必要になります。何故なら、「気づき」は学習者自身から生まれてくるもので、他から強制されるものではなく、「気づきを引き出す」こと。そんな思いで、この 10 年間、フォーラムは一方向的に講話を聞くような形式ではなく、参加者自らがその場で考え、発言できるような形式を選んで

きました。しかし、今年度のフォーラム終了後に、助言者の富永先生から今後に向けて、「フォーラム当日の参加者頼みの現在の形式には限界があるのではないか？少し別の方法を考えてはどうか」と投げかけられ、ぜひ検討しなければならないと思いました。

過去に私が学んだ公民館講座の講師（歴史学者）は、「差別にはそれぞれの歴史がある。その歴史を知らなければ、差別を語ることはできない」とおっしゃっていました。女が通ってきた歴史を知る、そこに見える差別や格差を知る、その上で今・現実にはどうなのかを検証する。そんな忍耐のいる学びを、さり気なく難しがらずに組み立てていく力量が問われるのかもしれませんが。そこは、専門家の力を借りながら行うしかないと考えます。

では、フォーラム実行委員会の問題点は何か。二つあると思います。一つ目は、公民館がフォーラムを公民館事業としてどのように位置づけ、市民参加の実行委員に何を期待するのかを明確にすること。言葉の上の定義ではなく、職員体制・姿勢も問われます。二つ目は、実行委員会は何の拘束力も持たない市民の（ボランティア的）集まりであること。実行委員一人ひとりが「これは私の問題であり、市民の課題である」という意識に立たなければ、実行委員会への出席の優先度が低くなり欠席も目立ちます。実行委員のモチベーションをどのように維持するか。これら二つの問題点をうまく絡み合わせて解決していくことを望んでいます。そのためには、開催当日に向けてただ準備に忙しくするのではなく、職員が先を見通しながら、なぜフォーラムに取り組むのかを思い起こしながら、要所要所で必要な学びを実行委員会に取り入れることを提案したいと思います。そして、実行委員と共に職員も学びを積んでいくことが、今後のフォーラムのためには、必要不可欠だと考えています。

9 学習支援・サークル援助

公民館では市民の自主的な学習・文化活動にさまざまな支援を行い、豊かな活動が展開できるような支援をしている。

日々の活動の中で、相談を行うことはもちろんだが、サークルがその活動の質を高め、成果の発表を行うために講師派遣援助事業、大小ホール借上料援助事業を継続して実施し

ている。

平成28(2016)年11月に、さくら会館1階に公民館資料室を開設し、資料の収集と保存・活用を行っている。

ご恵贈いただいた「ふっさ『公民館を創る市民の会』」の貴重な資料は、当時の思いを今に伝えている。

講師派遣援助事業

公民館では、公民館を利用する団体が、新たな市民へのひろがりを目指すための自主的な活動を支援している。その一つとして、利用団体が公開で行う学習会・講演会等へ講師を招く際に必要となる講師謝礼の一部を援助する「講師派遣援助事業」がある。

この10年間の実績は表のとおりである。

平成19(2007)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
家族SST講演会	平成19年10月27日	75	高森信子氏	FHMの会
設景の世界—玉川上水の景観を考える	平成19年12月2日		小林治人氏	玉川上水遊歩道を考える会
聞こえない子供たちの教育に関わって	平成20年2月3日	24	中川泰朗氏	手話サークル福手の会
「上代国家と中国との関わり」～文学に見る遣唐使・遣隋使達の魂の叫び～	平成20年2月16日		内藤 磐氏	まほろばの会
「介護保険はどうなる」～ケアマネージャー現場の現状・今後の見通し～	平成20年3月15日			地域福祉学習会ハートフル

平成20(2008)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
ひよつとこ踊り練習会	平成20年8月2日	34	尾作映江氏	福生ひよつとこ連
エッセイ公開講座	平成20年10月29日	24	臼田洋子氏	エッセイつむぎ
明日に向かう手話サークル	平成20年11月20日	63	小屋松一子氏	手話サークル福手の会
福生市域沿岸に関わる玉川上水の歴史と現状について	平成20年12月20日	33	坂上洋之氏	玉川上水遊歩道を考える会
どうしてだい？ 生活リズム	平成21年3月7日	17	藤田史郎氏	サークルシュガー

平成21(2009)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
精神障害者をかかえる家族の現状とこれからの展望	平成21年10月10日	73	野村忠良氏	FHMの会
玉川上水はどのようにしてつくられたか	平成21年12月5日		松浦 節氏	玉川上水遊歩道を考える会
親子で楽しくリトミック	平成21年12月10日		蔦川尚子氏	サークルポップコーン
難聴なにぬねの	平成22年2月21日	40	小川光彦氏	手話サークル福手の会

第2章 公民館10年のあゆみ 9 学習支援・サークル援助

平成22(2010)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
お話と語り 樋口一葉『十三夜』と『にごりえ』	平成22年10月16日		和田克子 氏	まほろばの会
ひょっとこ踊り—講演と練習会	平成22年11月27日	20	小作映江 氏 小作武夫 氏	福生ひょっとこ連
栄養バランスのとれた簡単料理を作ろう	平成22年12月5日	10	垣野真弓 氏	男の台所
玉川上水にまつわる秘話	平成23年1月23日		松浦節 氏	玉川上水遊歩道を考える会
言語聴覚師ってどんな仕事？	平成23年2月26日	34	氏田直子 氏	手話サークル福手の会
シャドウボックス講演会	平成23年2月27日	15	金子英子 氏	楽しいデコパージュの会
録音図書(デジタイズ)ができるまで～視覚障がい者の目になって～	平成23年3月12日		平井任子 氏	音訳の会れもん
エッセイ教室	東日本大震災のため中止			

平成23(2011)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
古典の世界を邦楽器の調べにのせてうたい、語る	平成23年10月1日	47	和田克子 氏	まほろばの会
五大疾患にふさわしい精神保健福祉医療改革を～安心につながる家族支援の実現にむけて～	平成23年10月8日	52	西田淳志 氏	FHMの会
エッセイを一緒に学びませんか	平成23年11月16日	11	柴田真利子 氏	エッセイ・つむぎ
対人コミュニケーションの方法を知る	平成24年1月18日	13	林田道子 氏	サークル延長戦
玉川上水の講演会	平成24年1月22日	26	柴俊男 氏	玉川上水遊歩道を考える会
障害福祉の歴史から学ぶ最近の障害者法	平成24年2月26日	65	矢野耕二 氏	手話サークル福手の会
あらためて考える～コミュニケーションってなんだろう？～	平成24年2月28日	15	辻 智子 氏	サークルシュガー
英語でコミュニケーション	平成24年3月31日	27	サンディ・シャファ ディ 氏	福生英会話グループ

平成24(2012)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
手打ちうどん作り	平成24年11月17日	20	細谷武夫 氏 細谷チヨ 氏	チーズケーキ
やさしいきりたんぼ鍋と昔懐かしいおやき	平成25年3月24日	18	砥綿久江 氏	男の台所
傾聴ってなーに？	平成25年3月24日	33	高橋大治 氏	傾聴ボランティアハピネス

平成25(2013)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
フラダンスを体験しましょう	平成25年8月23日	13	カウル ラウリイ 塚本 氏	ラウリイ モキハナ フラサークル
心のリフレッシュ講座	平成25年9月19日	15	河井アヤ子 氏	彩の会絵手紙
古典への招待～日記を通してみる和泉式部の人と作品～	平成25年10月3日	20	久保木哲夫 氏	まほろばの会
みんなでクッキング ～太巻き寿司作り～	平成25年10月29日	46	貫井恵美子 氏	チーズケーキ
あなたも書けるエッセイ	平成26年3月5日	22	臼田洋子 氏	エッセイ・つむぎ
傾聴という活動の目指すもの ～聴き方のトレーニング～	平成26年3月15日	30	石津和恵 氏	傾聴ボランティアハピネス

平成26(2014)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
片づけ上手	平成26年9月19日	27	川崎朱実氏	おりがみ雅
生活や仕事に役立つ心のリフレッシュ講座	平成26年10月23日	25	河井アヤ子氏	彩の会絵手紙
子育てから見えてきたこと～母として女性として～	平成27年2月21日	16	秋山典子氏	サークルシュガー
断捨離入門	平成27年3月4日	61	小林理恵氏	生活すっきり隊
パルーンアート講座	平成27年3月14日	20	池田賢三氏	福生アマチュアマジッククラブ
傾聴とは？	平成27年3月14日	21	石津和恵氏	傾聴ボランティアハピネス

平成27(2015)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
楽しく老いる講演会と交流会	平成27年7月17日	49	西田小夜子氏	熟年ひろば
折り紙や健康づくりに役立つ老化防止講座	平成27年10月8日	20	当麻 匡氏	おりがみ雅
生活や仕事に役立つ心のリフレッシュ講座	平成27年10月22日	22	河井アヤ子氏	彩の会絵手紙
写真上達フォトゼミナール	平成27年10月25日	15	中込俊哉氏	福生探検隊
玉川上水の自然や遊歩道について考える講演会	平成28年2月13日	38	渡部一二氏	玉川上水遊歩道を考える会
「語り」を学ぶ公開講座	平成28年3月18日	18	蛤谷糸美氏	音訳の会れもん

平成28(2016)年度

講座・講演会名	実施月日	人数	講師名	サークル名
俳句の楽しさ	平成28年9月14日	54	宮坂静生氏	白梅俳句会
史料発見の旅とドラマー私的体験からー	平成28年9月16日	34	新井勝紘氏	介山『大菩薩峠』を読む会
折り紙や健康づくりに役立つ老化防止講座	平成28年11月17日	18	当麻 匡氏	おりがみ雅
心のリフレッシュ講座	平成28年11月18日	34	河井アヤ子氏	彩の会絵手紙
福生名物酒饅頭を作ろう！	平成29年2月19日	20	幡垣正生氏	チーズケーキ
今、時代が求めているボランティア活動について	平成29年3月11日	23	高橋大治氏	傾聴ボランティアハピネス

大小ホール借上料援助事業

昭和 52 (1977) 年の開館以来、公民館を利用する市民から市民会館大小ホールの使用料免除を要望する運動が起こり、学習を保障するために定められた。

公民館では、公民館を利用する社会教育関係団体がその活動の成果を発表し、市民の学習・文化活動の発展に寄与するため、市民会館大小ホール借上料援助を行っている。

対象としては、市内にあって公民館で自主的に学習活動を行っている 5 人以上の団体とし、また営利を目的とする団体、特定の政党活動や宗教活動を目的とした団体は除くものとしている。

この 10 年の借上料援助事業を利用した活動は別表のとおりである。

この制度は団体の申請に基づき、来年度予算を要求、予算の範囲内で援助するものである。

平成19(2007)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第25回市民音楽祭)	平成19年6月17日	700	大ホール
福生吹奏楽団(第10回定期演奏会)	平成19年11月25日	394	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第14回定期演奏会)	平成20年3月23日	200	小ホール

平成20(2008)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第26回市民音楽祭)	平成20年6月22日	750	大ホール
朗読の会どんぐり(朗読発表会)	平成20年9月13日	210	小ホール
福生吹奏楽団(第11回定期演奏会)	平成20年11月23日	400	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第15回定期演奏会)	平成21年3月4日	200	小ホール

平成21(2009)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第27回市民音楽祭)	平成21年6月21日	920	大ホール
朗読の会「わかば」	平成21年9月12日		小ホール
福生吹奏楽団(第12回定期演奏会)	平成21年11月22日	485	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第16回定期演奏会)	平成22年3月21日	200	小ホール

平成22(2010)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第28回市民音楽祭)	平成22年6月20日	1,058	大ホール
福生吹奏楽団(第13回定期演奏会)	平成22年11月21日	404	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第17回定期発表会)	東日本大震災のため中止		

平成23(2011)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第29回市民音楽祭)	東日本大震災のため中止		
福生吹奏楽団(第14回定期演奏会)	平成23年11月20日	419	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第18回定期発表会)	平成24年3月25日	200	小ホール

平成24(2012)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第30回市民音楽祭)	平成24年6月17日	821	大ホール
福生吹奏楽団(第15回定期演奏会)	平成24年12月2日	521	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第19回定期発表会)	平成25年3月24日	250	小ホール

平成25(2013)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第31回市民音楽祭)	平成25年6月16日	920	大ホール
福生吹奏楽団(第16回定期演奏会)	平成25年11月24日	529	大ホール
シアターダンスサークル「アプリ」(I♡Dance Happy Holiday)	平成25年12月8日	260	小ホール
福生児童合唱団フレンズ(第20回定期発表会)	平成26年3月25日	150	小ホール

平成26(2014)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会(第32回市民音楽祭)	平成26年6月15日	926	大ホール
福生吹奏楽団(第17回定期演奏会)	平成26年11月30日	490	大ホール
シアターダンスサークル「アプリ」(I♡Dance Happy Holiday)	平成26年12月14日	500	小ホール
福生児童合唱団フレンズ(第21回定期発表会)	平成27年3月22日	200	小ホール

平成27(2015)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
舞踊クラブみのり会(第3回和の饗宴)	平成27年11月21日	206	小ホール
福生吹奏楽団(第18回定期演奏会)	平成27年11月29日	437	大ホール
シアターダンスサークル「アプリ」(I♡Dance Happy Holiday)	平成27年12月12日	240	小ホール
福生児童合唱団フレンズ(第22回定期発表会)	平成28年3月20日	200	小ホール

平成28(2016)年度

サークル名(事業名)	実施月日	人数	会場
福生ウクレレアンサンブル(ハワイアンコンサート)	平成28年9月25日	260	小ホール
舞踊クラブみのり会(第4回和の饗宴)	平成28年11月26日	200	小ホール
福生吹奏楽団(第19回定期演奏会)	平成28年12月4日	502	大ホール
福生児童合唱団フレンズ(第23回定期発表会)	平成29年3月19日	200	小ホール